

[BRC Top](#)[お知らせ](#)[ご挨拶](#)[事業の概要](#)[技術研修](#)[組織図](#)[各室概要](#)[公開情報](#)[リソース検討委員会](#)[個人情報保護](#)[採用情報](#)[アクセス](#)[リソース検索](#)[利用方法](#)[提供申込み](#)[寄託申込み](#)[提供手数料](#)[支払方法](#)[総合カタログ](#)[利用者登録](#)[メールニュース](#)[関連リンク](#)[お問い合わせ先](#)

公開情報

動物変異動態解析技術開発チーム

阿部 訓也 チームリーダー

1. 設定した目標の妥当性

1) BRCで実施する意義があるか

“世界最高水準のバイオリソースの整備”というセンターの目標に合致しているか？

genotype, phenotype, epigenotype の3つの分野で解析技術を開発することは研究支援の大きな柱でありBRCの目標に合致している。

BRCの目標達成に貢献する“道筋”は明確か？

可視化とSNP・BACという複数のプロジェクトへの取り組みがあるが、いずれの技術も将来的に大きく発展させるべきものであり、長期的な観点から見て妥当な道筋である。

2) 5年間で達成可能な目標か？

SNPチップの開発やバイオイメージング技術の供給はともに重要であり完成が望まれるが、到達の可能性は高いと思われる。

3) 国際的な視野に立った目標か？（国際的なリーダーシップにつながる目標か？）

Genotype, phenotype, epigenotypeの解析技術などいずれも独創性を要するが、幅広く応用のきく技術であり、オリジナル性を重視してゆくことにより先導的な研究目標となる。

2. 目標達成のための計画の妥当性

1) 目標達成に向けての具体的な計画であるのか？

これまでの実績に基づき発展させるという計画であるので技術の進展などにとまなう計画変更も予想されるが具体性は高い。

2) センターとして優先度の高い、必須な計画か？

バイオリソースの提供をより有効にするために、解析技術の提供

も非常に重要であり、必須であると云える。

3) 独創性の高い計画か？（単なる後追いではないか？）

Imagingと微量解析技術の融合は手法は独創的で画期的であり、広く望まれた技術である。

4) 研究資源（予算・人員）範囲内で実現可能な計画か？

大きな外部資金を獲得しており、現有体制で充分実現可能である。

5) 計画を実施するために必要な経験、実績を有しているか？

過去の実績に照らして、計画の実施に問題ないを考える。

3. その他

Imaging技術については、特定研究分野の専門間とのコミュニケーションが必要である。また、理研内の共同研究によって、さらに一段と開発を加速できるのではないかと期待している。

遺伝的背景の問題は重要な課題であり、新たな発見につながることに期待したい。



独立行政法人 理化学研究所 バイオリソースセンター

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3丁目1番地の1

brcqa@brc.riken.jp